

中国とその周縁の近現代について学ぶ

准教授 水谷尚子

1. 研究内容

中国、台湾、香港、シンガポール、東南アジア各地域の華僑華人居住地域、そして中国の「周縁」である新疆ウイグル自治区・内モンゴル自治区・チベット自治区・雲南省・広西チワン族自治区、東北三省、さらには中央アジアやロシア、朝鮮半島などを対象として近現代の歴史や文化、社会を学んでいく。

2. ゼミの進め方

《2年次》

まずはゼミ学生各自が、どの地域の何を対象としてこれから3年間、調査研究していくか、大枠で決めてもらい、知識を増やすための「読書」をしてもらう。興味関心のある分野の概説書を読み、その内容について発表してもらう。

《3年次》

2年次に選んだ分野について、さらにテーマを絞ってもらい、それに即した研究書や論文を読み、可能であれば実地調査も行い、ゼミ発表してもらう。

《4年次》

これまで学んできた内容の集大成として、希望者には卒業論文あるいは調査報告書を提出してもらう。

たとえば

- ・台湾について興味がある→台湾に関する概説書を読む(2年次)→その中からテーマを絞る→台湾と沖縄の関係を調査したい→周辺資料を探して読む(3年次)→さらに可能であれば沖縄や台湾で聞き取り調査をする(3-4年次)→卒論執筆(4年次)など
- ・中華人民共和国の歴史に興味がある→中国近現代史に関する概説書を読む(2年次)→その中からテーマを絞る→文化大革命について調査したい→周辺文献資料・新聞記事を探して読む(3年次)→さらに可能であればフィールドワークをおこない、文革体験者に直接聞き取り調査をする→その際、たとえば紅衛兵側にも打倒の対象とされた側にも、あるいは文革を礼賛した側にも、それに反対した側にも、両方の聞き取りができれば望ましい(3-4年次)→卒論執筆(4年次)など

[ゼミ見学, ゼミ旅行について]

現在のパンデミックが沈静化したならば、2~4年のいずれの時期に、以下のような活動を考えている。

・御茶ノ水界限散策

中国語書籍を販売する書店が御茶ノ水周辺には多く集まっており、そうした書店の見学。

江戸時代から存在する孔子廟(湯島聖堂)、中華人民共和国との友好関係を願って運営されている日中友好会館、日中戦争後満洲(特に哈爾濱)から引き揚げてきた白系ロシア人が集ったニコライ堂など、「中国」に関係のある大学近辺施設の見学。

・関東圏

中国語書籍を大量に保管している駒込の東洋文庫、日本最大の華僑エリア横浜中華街、池袋と西川口の新興華人街、中国穆斯林が集う代々木モスクなどの見学。

・ゼミ旅行

関西の中国にゆかりある地、京都黄檗萬福寺、奈良唐招提寺、神戸中華街などの見学。

台湾、あるいはロシア極東(中国との国境に近いあたり)などの国外。

以上のような場所を候補地とするが、情勢を見て、できるだけ安全に、安価に行ける地を、相談して決めたい。

3. 教材

共通教材はもうけない。ただし、各自の興味関心にあわせて、読書についてのアドバイスは行っていく。

4. 成績評価の方法

発表レジュメや発表内容(40%)、授業への参加度(20%)および提出レポート(40%)によって総合的に評価する。3回以上欠席をしたら、単位は出せない。

5. ゼミ入室試験(選考方法)

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

履修者は、高校時代に世界史Bか日本史Bを、大学1年時に中国語か韓国語、ロシア語を学んだ者が望ましいが、それらを履修していなくても意欲ある学生は、歓迎する。

基本的に「読書会」的な雰囲気ですんでいきたい。したがって「パフォーマンス力」や「発表の上手さ」は求めない。それよりも、レジュメの出来や、じっくり本や記事、資料を読み込んでいるか、調査対象の口述をしっかりと聞いているかを評価基準とする。